

研究主題

考え、かかわり、学びをつなぐ 力を持った 児童の育成

～学びの必然性がある学習課題設定の工夫(1年次)～

考え、かかわり学びをつなぐ授業

- (1) かかわりの目的や、思考の視点の明確化
- (2) 学びをつなぎ、高める指導の工夫(発問、指示、問い返し、学習モデルや条件の提示、スキル)
- (3) 思考を深め、可視化する、効果的な思考ツールやICTの活用
- (4) 多様なかかわりをつくる学習形態の工夫(個別・ペア・グループ・全)

＜必然性のある学習課題設定の工夫について＞

- ・教材との出合わせ方の工夫(知的好奇心の喚起や実生活とのつながり等)
- ・多様な課題・問いを生み出す発問・教材・資料等の提示(既習事項・既有知識とのズレ等)
- ・必要感を高める課題設定(意見の対立・葛藤・生活課題の解決等)
- ・生活と関連付けた計画・ゴールの設定や道筋を明確にした計画等

1. 単元名 (教材名・題材名・資料名)

じんぶつと自分を くらべて読もう 『わたしはおねえさん』

2. 単元の目標

◎「すみれちゃん」が考える理想のおねえさん像をもとに、すみれちゃんがどこでおねえさんらしく成長したのかななどを登場人物の行動や会話をもとに具体的に想像して読むことができる。

【読(1)エ】

○等身大の「すみれちゃん」の行動や心情をもとに、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

【読(1)オ】

○場面の様子や「すみれちゃん」の行動に着目し、中心場面や登場人物の変容を読み取り、あらすじをまとめることができる。

【読(1)イ】

3. 単元について

＜教材観＞

本教材「わたしはおねえさん」の中心人物「すみれちゃん」は、児童と同じ2年生である。主人公の行動や主人公のまわりで起こる出来事は、実際に似たような体験をしている児童も多いと考えられる。また、幼い妹とのやり取りは、兄弟姉妹がいる児童はもちろん、進級してお兄さんやお姉さんになったこの時期の児童には実感を伴って読み進められると考える。子どもたちにとっては、親近感をもちながら読むことができ、さらに自分の経験をもとに主人公と比べながら読み進めることができる教材である。

<児童観>

登場人物の行動を中心に場面の様子を想像しながら読み進める学習は、1年生の時から多くの物語教材を通して学習してきた。2年生では、「ふきのとう」や「スイミー」の物語教材を通して、登場人物の様子や心情を想像したり、登場人物に自分を重ね合わせたりする学習を通して、自分の考えを述べることができるようになった。また、「お手紙」では、似たような挿絵や文を比較し、中心人物の変容を考えることができた。

一方で、自分の考えを分かりやすくまとめたり、物語の中で大事なところをまとめたりすることの難しさを感じている児童が少なくない。登場人物の行動や場面の様子について、順序立てて読み取り、自分の考えを簡潔にまとめるという点については現在の課題である。

<指導観>

本教材において、以下の点に留意して指導していきたい。

① 物語を一文で表す。→あらすじをまとめる。

本単元の最後ではあらすじをまとめる活動を行う。その前段階として、物語を一文で表す活動を行い、物語の「はじめ」「なか」「おわり」を大まかにとらえる。また、単元の初めに行う「一文で表す活動」では、中心場面はどこなのか考え、単元の最後に再度同じ活動を行い比較することで、物語の大事な出来事や自分の考えに気づかせたい。

② 「すみれちゃん」が考える理想のおねえさんについて意識しながら読み進める。

「すみれちゃん」が考える理想のおねえさん像をもとに、「すみれちゃん」自身が理想のおねえさんに近づいているのかを子どもたちが評価することで、中心人物である「すみれちゃん」の変容を読み取らせる。また、「すみれちゃん」はなにがきっかけで理想のおねえさんに成長していったのかを想像させていきたい。

③ 動作化を通して読みを深める。

本単元では、似た言葉を比較し、登場人物の変容に気づくことができるように発問を設定する。そこで、一回目の「じっと」と二回目の「じっと。ずっと。」を比較するために、等身大の主人公である「すみれちゃん」の行動を実際にやってみて、「すみれちゃん」が考えたことを想像させ、自分の思いや考えをまとめる力へとつなげていきたい。

4. 研究テーマとの関わり ～学びの必然性がある学習課題設定の工夫(1年次)～

- ・多様な課題・問いを生み出す発問・教材・資料等の提示（既習事項・既有知識とのズレ等）

⇒物語を一文で表す活動から中心場面を考えたり、「すみれちゃん」の行動を比較し動作化を行ったりして児童がより深く考えられるようにする。

- ・生活と関連付けた計画・ゴールの設定や道筋を明確にした計画等

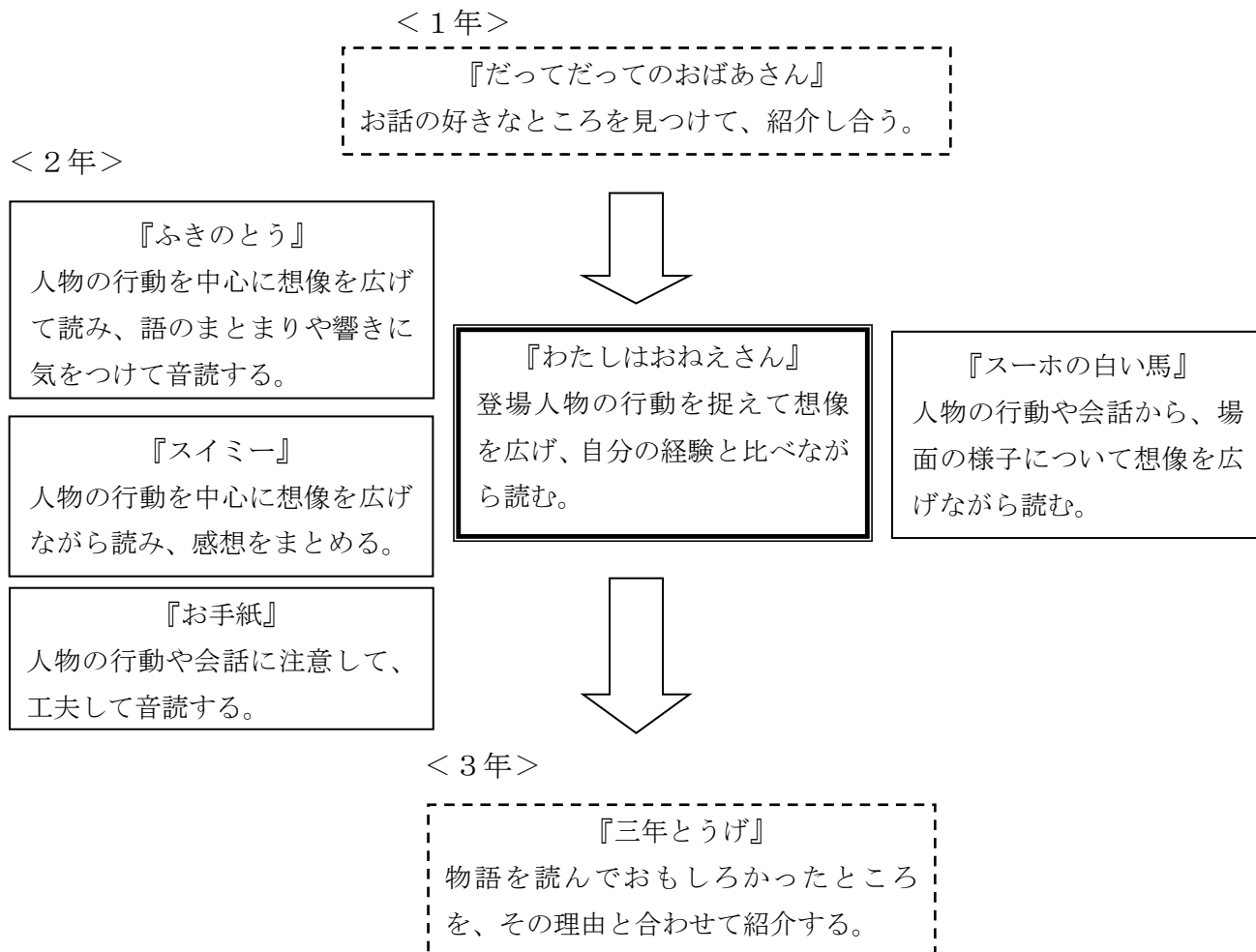
⇒あらすじを保護者に紹介する活動を単元のゴールに設定することで、学ぶ必然性をもたせる。

また、単元の最初と最後には同じ活動（物語を一文で表す）を行う。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>(1) カ 文の中における主語と述語の関係に注意して、文章を読んでいる。</p>	<p>C 読むこと (1) イ 場面の様子や「すみれちゃん」の行動に着目し、中心場面や登場人物の変容を読み取り、あらすじをまとめている。</p> <p>C 読むこと (1) エ 「すみれちゃん」が考える理想のおねえさん像をもとに、すみれちゃんがどこでおねえさんらしく成長したのかなどを登場人物の行動や会話をもとに具体的に想像している。</p> <p>C 読むこと (1) オ 等身大の「すみれちゃん」の行動や心情をもとに、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p>	<p>本教材を読んで、等身大の「すみれちゃん」と自分を比べたり、重ねたりしながら、自分なりの感想をもっている。</p>

6. 単元の系統性



7. 指導と評価の計画（評価は省略）

	時間	学習活動【学習内容】	評価規準（評価方法）
第一次 「構造と内容の把握」	1	<p>「構造と内容の把握」</p> <p>○題名を読み、「おねえさん」のイメージを 発表しあう。 【概要の理解】</p> <p>○本文を音読する。</p> <p>○物語を一文でまとめる。</p>	<p>知技文の中における主語と述語の関 係に注意して、文章を読んでいる。</p> <p>思判表場面の様子や登場人物の行動 などから、誰が何をしたのか捉えている。</p>
	2	<p>○一文を発表し、学習課題を確認する。</p>	<p>思判表場面の様子や「すみれちゃん」 の行動に着目し、中心場面や登場人物 の変容を読み取り、一文でまとめている。 （発表・ワークシート）</p>
第二次 「精査・解釈」 ↓第三次 「考えの形成」	3	<p>「精査・解釈」→「考えの共有」</p> <p>○歌を歌っている「すみれちゃん」はどんな 人物か考える。</p> <p>○「すみれちゃん」が考える理想のおねえさ んについて考える。</p>	<p>思判表「すみれちゃん」について、場 面の様子や登場人物の行動などをも とに想像している。（発表・ワークシ ート）</p>
	4	<p>○「すみれちゃん」は理想のおねえさんなの か考える。</p>	<p>思判表「すみれちゃん」が理想のおね えさんに当てはまるのかを場面の様 子や登場人物の行動などをもとに想 像する。（発表・ワークシート）</p>
	5	<p>○「すみれちゃん」の会話から、「すみれち ゃん」が理想のおねえさんに近づいたかど うか考える。</p>	<p>思判表「すみれちゃん」が理想のおね えさんに近づいた理由を、場面の様子 や「すみれちゃん」の会話などをもと に想像する。（発表・ワークシート）</p>
	6 本 時	<p>○「すみれちゃん」がノートをじっと見たと きになにを考えたのか考える。</p>	<p>思判表ノートをじっと見たときに「す みれちゃん」が考えたことを場面の様 子や登場人物の行動などをもとに想 像する。（発表・ワークシート）</p>
	7	<p>○「すみれちゃん」が、絵を消しかけてやめ た理由を考える。</p>	<p>思判表絵を消しかけてやめた理由を 場面の様子や登場人物の行動などをも とに想像する。（発表・ワークシー</p>

			ト)
第四次 「共有」	8	「共有」 ○自分と「すみれちゃん」をくらべて感想を書き、友だちと交流する。	思判表 等身大の「すみれちゃん」の行動や心情をもとに、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(発表・ワークシート) 態 本教材を読んで、等身大の「すみれちゃん」と自分を比べたり、重ねたりしながら、自分なりの感想をもっている。(発表・ワークシート)
	9	○物語を一文でまとめ、最初にまとめた一文と比べる。 ○あらすじをまとめる。	思判表 場面の様子や「すみれちゃん」の行動に着目し、中心場面や登場人物の変容を読み取り、あらすじをまとめている。(発表・ワークシート)

8. 本時の目標

○かりんちゃんのぐちゃぐちゃの絵をみつけた「すみれちゃん」の行動や様子について想像したことをもとに、「すみれちゃん」が理想のおねえさんに近づいたかを考えることができる。

【観点】**思判表** 読むこと (1) エ

9. 本時の展開 (6 / 10)

過程	子どもの意識の連続性	学習活動	教師のはたらきかけ (評価規準・方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ノートに何かかかかれているのを見つけた時は、半分泣きそうで半分怒りそうだった。 最後は笑っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習場面の音読をする。 ○音読した場面のすみれちゃんの様子を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書から抜き出すよう伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 「じっと。ずっと。」ノートを見たとき、すみれちゃんは何を考えたのだろう。 </div>			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・最初からずっとノートを見ていたわけではない。 ・「もういちど、ノートを 	<ul style="list-style-type: none"> ○すみれちゃんが見たものを教科書から探し、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係に注意して、登場人物の行動や場面の様子を想像させる。

	<p>見ました。」とあるから、どこかでノートを見たはず。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初も最後までじっとノートを見ている。 ・「かりんちゃんを見ました。」 ・かりんちゃんがゆびさした後にコスモスを見た。 <p>・最初ノートを見たときは、おこっていた。泣きそうだった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かりんちゃんは堂々とした表情で「お花。」といった。 ・すみれちゃんはかりんちゃんがいたずらでかいたわけではないと気づいたと思う。 ・最後はノートを見ながらなにか考えている。 <p>・花壇に一面に咲いていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道端に咲いていたわけではない。 ・すみれちゃんが春に種をまいて、育てたコスモス。 <p>・かりんちゃんはわたしのことをずっと見ていたのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしが好きなコスモスをかいてくれたのかな。 ・いたずらじゃなかったんだな。 ・一生懸命かいたのかな。 	<p>○すみれちゃんを目線に注目しながら、すみれちゃんとかりんちゃんの行動や様子を、動作化して考える。</p> <p>○かりんちゃんがかいたコスモスについて、どのように咲いていたのか、だれが育てたのか考える。</p> <p>○2回目の「じっと。ずっと。」のとき、すみれちゃんは何を考えていたのか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「何よ、これ。」と「あはは。」の前の行動が同じことに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・すみれちゃんを目線に注意しながら動作化することを伝える。 ・すみれちゃんが見たものが、「ぐちゃぐちゃのもの」→「かりんちゃん」→「コスモス」→「ぐちゃぐちゃの絵」に戻っていることをおさえる。 ・すみれちゃんがみたかりんちゃんの表情や様子をおさえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・かりんちゃんの「お花。」がコスモスだったことをおさえる。 <p>思判表 ノートをじっと見たときにすみれちゃんが考えたことを場面の様子や登場人物の行動などをもとに想像する。(発表・ワークシー</p>
--	--	---	--

